「ゆるしの秘跡を生きる」
(18.1.25:カトリック儀式書)

諸言：

一　救いの歴史における和解の体験

1　御父はキリストにおいて私たちをご自分と和解させ、御子の十字架の血によって、平和をもたらされた。最初に、イエスは、ガリラヤで開口一番、**「時は満ち、神の国は近づいた。回心して、福音を信じなさい」(マルコ 1.15)** と叫ばれた。

この回心こそ、自分中心に生き方から、神中心の生き方に根本的に切り替えることであり、当然、罪を捨てて心から神へ立ち帰る体験を伴う。

2　この回心の体験は、まず、洗礼によって古い自分をキリストと共に十字架につけ、新しい復活のいのちに生れ変わることにほかならない（ローマ 6.5-11 参照)。

ミサの奉献においてキリストの受難が現在化（再現）され、わたしたちのために渡されたからだと、罪のゆるしのために流された血が、全世界の救いのために日々教会によってささげられる。これこそキリストの救いの御業に現在化である。

二　教会における回心者の和解

教会は聖なるものであると共に、常に清めを必要としている

3　「キリストは清く、罪も汚れもなく（ヘブライ 7.26)、罪を知らず（ニコリント 5.12)、ただ民の罪を償(つぐな)うために来られた（ヘブライ 2.17 参照）が、教会は、その懐(ふところ)に罪人を抱くものとして聖なるものであると共に、常に清めを必要とするものであり、絶えず回心と刷新に励んでいるのである」(『教会憲章』8 項)。

生活と典礼における回心

4　教会は、生活をおとして実行することを典礼においても行うので、回心の式によって、自分が罪人であることを告白し、神と兄弟の赦しを願う。

神と教会との和解

5　回心は、罪によって傷つけてしまった兄弟たちとの和解を常に伴う。

また、回心において、互いに助け合ってキリストの恵みによって罪から解放され、すべての善意の人とともに正義と平和を世にもたらすように努める。

赦しの秘跡の流れ―個別のゆるしの式―

6　まず、心から神に立ち帰る。したがって、このような回心は、罪の究明と悔い改めと新しい生活を始める決意と、教会に対する告白、ふさわしい償い、生活改善によって示される。

始めに

司祭・信者　父と子と聖霊のみ名によって。アーメン。

罪の告白

司祭　神のいつくしみに信頼して、あなたの罪を告白してください。

・・・・

信者　きょうまでの主(おも)な罪を告白しました。ゆるしをお願いいたします。

すすめと償いの指示

司祭　それでは、神のゆるしを求め、心から悔い改めの祈りを唱えてください。
神の子、主イエス、罪人のわたしをあわれんでください。

罪のゆるし

司祭　全能の神、あわれみ深い父は、御子キリストの死と復活によって・・・

信者　アーメン。

終わりに

司祭　罪をゆるしてくださった神に感謝をささげましょう。喜びと平和のうちにお帰りください。

信者　ありがとうございます。